第２学年　体育科　授業構想シート

授業者　則藤 一起

本実践の主張点	ペアでアドバイスをし合うことと，場やルールの工夫を子どもたちと行うことで，子どもが投げ方について省察し，主体的に忍Ｂ道場～投げるの巻～に取り組む姿が見られるであろう。

１．単元名　忍Ｂ道場～投げるの巻～

２．２年Ｂ組の子ども

６月から全員登校が始まり，学校生活にも随分慣れてきた様子である。学習や遊び，生活の中で友達と関わる姿が増えてきて，互いの思いを言葉で伝えられるようにしている。

鉄棒運動遊びでは，逆さ感覚を味合わせたいと考え，ぶら下がる活動に主に取り組んだ。ペアに教えるとき，自分の言葉で伝えようとする姿が多かった。遊びは，男女ともにドッジボール・タッチをしないおにごっこ・なわとび・プレイランドなど体を動かして遊んでいる。女子をボール遊びに誘うと両手で下から投げたり，また，紙飛行機きを思い切り投げる際にひじを出して投げたりする姿など，オーバースローの動きになるべき場面で，その動きができていないことが分かった。

３．何ができるようになるか

探究力	・体育の見方・考え方を働かせながら，目の前の未知の問題に対して，探究のプロセスをとおして，解決に取り組む資質・能力
省察性	・体育の見方・考え方を働かせながら，自らの学びにおいて学びの方法や道筋を調整・改善したり，学びを意味付けたり，学んだことを自己の生活や行動につなげたりする自己効力感に支えられた資質・能力

４．何を学ぶのか

① 単元の目標

きまりを守り仲良く運動をしたり場の安全に気を付けたりしながら，忍Ｂ道場～投げるの巻～に進んで取り組み，ボールを投げる動きができるようになる。

② 教材の価値

ボール運動系は，低中学年では「ゲーム」，高学年で「ボール運動」という領域であり，指導内容に“投げる（蹴る）・捕る”といったボール操作も含まれるが，指導内容の中心は，ボールを持たないときの動きによる易しいゲームをすることである。ボールを投げる動き，特にオーバースローの動きは，低学年のうちに身に付けさせておきたい動きである。陸上運動系に走・跳の運動遊びがあるが，新指導要領では「投の運動遊び」を加えて指導できることが示された。本単元では，様々な的に向かって楽しみながら投げる中で，どうすれば的が倒れるのだろう，どうすれば遠くまで投げられるのだろうを問い続けながら，投げ方も身に付くようにしていきたい。

③学年間・教科間のつながり

オーバースローの投げ方は，10 歳までに身に付けさせたい動きである。ボール運動系の中で，低中学年で系統立てて指導していく。また，生活科の「つくろう あそぼう くふうしよう」のおもちゃ作りでの紙鉄砲遊びや，２学期に行う体つくり運動やボールを使った運動遊びでの投捕の運動と関連させて行う。また，忍Ｂで考えた「勇気 100%」のダンスの振り付けを使い，肩回りの準備運動に生かしていく。

５．どのように学ぶのか

①学習内容を理解し，資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全６時間）　本時３/６

・どうすれば強く遠くへ投げられるの？

①忍Ｂ道場を楽しみ，投げ方に目を向ける

②どうすれば強く遠くへ投げられるのかを考える（足の位置について考える）

③どうすれば強く遠くへ投げられるのかを考える（投げる方の腕の位置について考える）

・忍ボスを倒すためにどんな修行がいるの？

④ルールの工夫を行い，自分の目標を決めて活動する。

⑤より強く遠くへ投げるために，自分に必要な修行を考えて取り組む（ペアで）

⑥修行の成果を発揮し，忍ボスを倒す

	単元における授業づくりの「しかけ」 探究力 主：主体　協：協働　活：活用 省察性 気：気付く　決：決める　動：動く
探究力を育む	主 子どもが投げたくなるような場や雰囲気の工夫を行う。 協 忍ボスを倒すという目標に向かい，クラス全体で強くなるために教え合い，聞き合えるようにする。 活 紙鉄砲や段ボールラケットの活動が，投げる動きと関わっていることを知り，忍Ｂ道場での修行に取り入れる。
省察性を育む	気 ペアで投げ方を見合う時間を設定することで，自分との共通点や相違点に気付かせる。 決・動 ペアでの話し合いから，自分が気を付けるポイントを知り，実際に修行の場で活動する。

６．何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・忍Ｂ道場～投げるの巻～の楽しさに触れ，投げる運動遊びの行い方について知っているとともに，力強く遠くに投げる動きを身に付けている。	・投げることの簡単な遊び方を工夫するとともに，考えたことを忍Ｂキッズに伝えている。	・忍Ｂ道場～投げるの巻～の楽しさに触れることができるよう，同道場遊びに進んで取り組もうとしていたり，順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり，場や器具の安全に気を付けている。

和歌山大学教育学部附属小学校

体育科学習指導本時案

授業者　則藤 一起

日時：令和２年７月 10 日（金）第６校時（14:35～15:20）

対象：第２学年Ｂ組　30 人

本時の主張点	ペアで投げ方を見合う場面を設定することで，子どもが自らの投げ方を省察し，修行でも互いにアドバイスをし合う姿が見られるようになるだろう。

１．本時の構想と学習課題について

単元に入る前に，忍Ｂキッズたちがどのような投げ方をしているのかを把握しようと，撮影をおこなった。足をそろえて投げる…２人，投げる手と同方向の足を出して投げる…５人，投げるときにひじが下がっている（ダーツを投げるような投げ方）…12 人，比較的上手に投げる（テイクバックが円を描き，体を少しねじる）…11 人であった。第１時を終え，子どもたちは的に向かって一生懸命投げていた。第２時では，出す足について考え，本時では，投げる方の腕（テイクバック）について考える。第２時の出す足については，比較的容易に理解でき，運動していけると考える。投げ手と反対の足を出すことができれば，体が少しひねられてくるだろう。本時では，「どうすればより強く遠くへ投げられるのだろう～投げる方の腕はどうしたらいいの？～」を課題とし，テイクバックに着目する。

２．本時における探究の質を高める場面と授業づくりの「しかけ」について

本時における探究の質を高める場面は，ペアで投げ方を見合う場面である。前時に，出す足について視点を与えたように，本時では，投げる方の腕について考える。テイクバックが小さいままだと強く遠くへ投げられない。強く遠くに投げられる子どもの動きをみんなで見て，投げる方の腕がどのようになっているのかを話し合い，オノマトペを利用し，その方法について共有する。そして，ペアで確認してから活動に入るようにする。活動中も，適宜ふり返る場面を設定し，自分の投げ方と対話しながら投げていくようにする。

３．本時における評価活動について

１つ目は，投げる腕の動きを共有した後のペア活動である。２年生なのでまだ上手く言葉で伝えられないだろうが，投げ方をオノマトペにすることにより，タイミングをつかんで投げられているかを見合うようにする。

２つ目は，終末のふり返り活動である。できるようになったことや分かったことをふり返りカードに書くことにより，今日の自分がどこまでできたのか，投げ方についてどのように分かったのか，またどんなことが分からないのかを考えさせる。

４．本時の目標

オノマトペを利用し，ペアで見合い，投げ方について伝え合うことで，強く遠くへ投げられる方法に気付く。（知識・技能の知識）

５．本時において働かせたい見方・考え方

☑くらべる　□つなげる　□まとめる　□わける　□予想する　□見方を変える

６．本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
１．場の準備，肩の準備運動	・ 音楽を用いて，楽しい雰囲気で行うようにする。
２．課題の確認 どうすればより強く遠くへ投げられるのだろう～投げる方の腕はどうしたらいいの？～	
○下から上になっている ○大きい気がする ○丸をかくように回している	・ 強く遠くに投げられる子どもの投げ方から，その方法を話し合う（テイクバックについて）。 ・ その方法を，オノマトペを利用して共有させる。
３．ペア活動 ○ま～るかいて，シュッ！ ○グイ～ン，シュッ！	・ オノマトペと動きとが合っているかを観察し，合っていない場合は，ペアにどのような声かけをさせるか助言する。（協働）
４．忍Ｂ道場～投げるの巻～の活動 ○なかなか難しいな ○ちょっと強く投げられた！ ○遠くから当たったよ！ 途中水分補給	・ 適宜，投げ方について問い，自分の投げ方と対話しながら活動できるようにする。 ・ 水分補給 ・ 難しそうにしている子どもが多ければ，全体での時間を設定し，もう一度オノマトペを共有させる。
５．ふり返りと次時に向けて，片付け ○グイ～ン，シュッ！にすると，強く投げられた。（ピンクのカード） ○△△さんの投げるのが強くなっていたよ。（黄のカード）	・ どのようにして投げ，その結果がどうだったのかをカードに書かせる。 ・ 黄のカードも書ける子どもには書かせ，そこからその子どもの動きを見て，できるようになったことをみんなで共有し，賞賛する。 知強く遠くへ投げられる方法を知る。（活動の観察・ふり返りカード） ・ 足の動きと腕の動きとが流れるような動きか，うでのふりが大きくなったかを問い，次時の自分の目標とさせる。